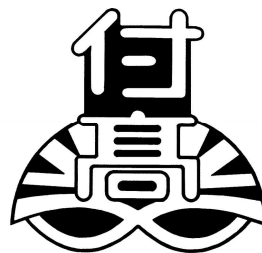


令和六年度 第六十四期生

(令和七年度入試)

合格体験記



熊本学園大学付属高等学校

進路指導部

「受験という一つの節目を終えて」

名古屋大学医学部医学科

学校推薦型選抜（大学共通テストを課す）

熊本学園大学付属中学校出身 T・K

皆さん、こんにちは。

64期生のT・Kと申します。令和7年度の学校推薦型選抜で名古屋大学医学部医学科に合格しました。この合格体験記では、私が受験期で学んだことを一つ一つ還元できればと思っています。

まず、はじめに私が志望大学への進学の意志を固めたのは、3年生の7月でした。人によっては、遅いと感じる方もいらっしゃると思います。ただし、悩み抜いた末に決めた進学先であったからこそ最後まで諦めずに努力し続けることができました。大学進学はあくまでスタート地点に過ぎませんが、皆さんに合った環境を選ぶことが大切です。しっかりと悩み抜いてください。私は名古屋大学の他には、大阪大学や、筑波大学、熊本大学などが進学先として上がっており、最終的に私が将来なりたいと考えている研究医として必要な能力を身につけるために最適な環境として、名古屋大学を志願しました。

次に、学習に関してですが、私は他の同級生と比較すると演習量でははるかに及びませんでした。しかし、一つ一つの前のことに丁寧に取り組み、演習の質の面でその差を少しずつ埋めることを意識していました。そして、演習量の差を埋めることに効果的であったのは、日々の授業や特別演習でした。私は塾には行ったことがないため、塾と単純に比較を行う

ことはできませんが、おそらく学付の特別演習は塾に通う以上のものが得られると思います。授業に関しても、人によっては簡単に思うような授業もあるかもしれませんが、そのようなときは授業の受け方を工夫してみると良いと思います。ただ板書を行うだけでなく、論理的にノートをとるためにも、必要な情報を書き足してみたりすることによって楽しみながら理解度を深めることができます。同じ時間の使い方でも有意義な時間の使い方日常的に心がけてみてください。

また、これは私の反省談ですが、あまり参考書を増やしすぎないほうが良いと思います。私は、特に化学や物理に関してはいくつか参考書を持っていましたが、最終的に教科書に帰りました。教科書には学ぶべきことがすべて書いてあります。ぜひ教科書を最大限に活用してみてください。

最後に、今、この文章を読んでいる皆さんの中には、受験に対して漠然とした不安を抱えている人たちが多くいらっしゃると思います。どうか入試に限らず、普段の学校生活においても不安を感じている人たちの立場に立って物事を考えることができる素敵な皆さんであり続けてください。皆さんのご健闘を心より祈っています。



「私の合格への道」

広島大学生物生産学部生物生産学科

国公立大学一般選抜・前期
熊本市立北部中学校出身 A・E

私は広島大学の生物生産学部生物生産学科に合格しました。塾や予備校には行かず、学校の課外と自習のみで勉強しました。やはりどんな教科でも課題を解いた後の復習が大事だと思えます。例えば英語の場合は、課題文の分からなかった単語に印をつけ、辞書や単語帳で意味を確認し、メモ帳にまとめて苦手な単語ノートを作成しました。また、化学の場合もまずは暗記することが最優先なので、覚えるべきことはまとめてスキマ時間に見るようにしました。加えて、化学の有機の単元は覚えることにプラスして理解することも必要なため夏頃に予習しておくことも手かもしれませぬ。このようにして各教科ごとの苦手やわからないところを潰していきました。

ここまでは共通テストの勉強も、二次試験の勉強もあまり変わりませぬ。共通テストの特徴は、英語など時間制限にシビアな教科がある点と、マーク式であるという点です。これらは、模試などで慣れていくしかないと思います。私もはじめの模試では英語の時間が全く足りず、ひどい点数を取っていました。ですが、課外の中で時間配分をしっかり決め、また単語や文法の勉強を並行して行うことで理解力も上がり段々と間に合うようになって

いきました。他には国語や数学の時間配分もしっかり考えていたほうがいいと思います。マーク式の解き方のコツとしては、分からなくてもとにかく塗ること、問題用紙に印をつけるのを忘れないことです。慣れるには場数を踏むしかありません。10月頃は模試続きで大変ですが必ず身になるので、頑張ってください。

二次試験の対策としては、どんな学校でもとりあえず過去問を解いてください。それに、共通テストの演習を行っている間にも二次対策も少しずつ進めたほうがいいと思います。共通テスト形式に慣れてしまうと、二次形式の問題を解く体力がなくなってしまうので、問題形式は学校ごとに違いがあるので、対策についてネットで調べてみていいかもしれません。

今から受験する皆さんになにか今すぐにできることをアドバイスするとすれば、できるだけ多く大学に関する情報を収集するべきだということです。大学自体のネームバリューだけでなく、受験科目、英検を受験で使用できるか、推薦方式、共テや二次の配点割合、など調べることはたくさんあります。その情報次第で、また違った可能性が開けるかもしれません。まだ時間はあります。あなた方の未来が開けることを心から願っています。頑張ってください！



広島大学

「受験を振り返って」

鹿児島大学法文学部法経社会科学地域社会・経済コース

国立大学一般選抜・前期

熊本市立白川中学校出身 R・T

私が大学受験を振り返って思うことは、高校受験の失敗が決して無駄ではなかったということです。

私は高校受験期、济々巒を目指して勉強をしていました。結果は不合格で第二志望だった学付に進学しました。学付には同じような経験をした人が多くいると思います。そういった人たちに伝えたいことは、その経験は大学受験において、大きな糧になるということです。学付に入学してからの生活はとても楽しく、部活、体育祭、文化祭などが過ぎて、あつという間に高3になりました。高3で大学受験を本格的に迎えて思ったことはやはり、「なぜ私はあのかとき、济々巒に落ちたのか」ということでした。改めて考えてみるとそこには、自分の受験に対する慢心とそれによる勉強不足があったと思います。私は中3のとき、一度模試で济々巒A判定を取りました。本来ならそこで、そのままのペースで勉強をすべきところを私は、その結果に満足して勉強を疎かにしてしまいました。そのようなことを振り返って、大学受験では絶対にそのようなことはしないと私は心に誓いました。私は大学の受験において、塾には通わず、学校の朝課外や夕課外で苦手な数学や英語を中心に英語を進めました。数学は、公式などの基本的な内容をおさえるだけでも周りと

の差をつけることができました。英語に関しては、大学の2次試験でも使う科目だったので、英単語や英文法をしっかりとおさえ、長文問題や文法問題に対応できるように、共通テスト過去問や赤本などで演習を重ねました。そのようなこともあってか、模試の判定は高3の4月の鹿児島大学C判定から徐々に上がっていき、11月頃にはA判定になりました。ですが、私は高校受験の経験があるので、その結果に慢心せず、そのままのペースで勉強を進め、大学受験本番を迎えることができました。共通テスト本番では、模試での自己最高得点を更新し、点数に余裕を持って本番を迎えることができました。

先に書いたように、学付には私と似たような経験をした人が多くいると思います。そのような人たちに私の体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。最後に、担任の溜瀝先生や授業、課外などで担当していただいた先生方、大変お世話になりました。



「合格のヒケツ」

北九州市立大学地域創生学群地域創生学類

総合型選抜(大学入学共通テストを課さない)

熊本学園大学付属中学校出身 K・S

高校3年生になり、周りは夢や目標に向かって必死に勉強している中、私には将来の夢がありませんでした。高校3年生の夏、母から勧められたオーブンキャンプです。そこからは総合型選抜の一次試験までは約2ヶ月、二次試験までは約3ヶ月。試験内容は集団討論と小論文、面接でした。時間も実力もない危機的状況の私がどのように受験を乗り越えたのか、その秘訣は「仲間」と、「気持ち」の2つだと考えます。

集団討論という入試方法は珍しく、対策が困難でした。そんな時に助けてくれたのが「仲間」でした。自分の勉強する時間を惜しまず練習に協力してくれた友達、同じ形式の試験を受ける生徒を探して声掛けをしてくださった先生、休日には本格的な練習に付き合ってくれた家族。この「仲間」がいたから私は最強になりました。私は入試の時期が周りより早かったため、孤独な戦いになると勝手に思っていました。受験は団体戦、「仲間」に頼ったもん勝ちだったのです。受験期は頼る・頼られる関係を大切にすべきだと学びました。ライバルの受験生にはコミュニケーション能力や語彙力が高い人が五万といて、とても敵わないと思いました。そこで、「気持ち」だけでは絶対負けぬよう、大学への愛では一番の先生が決め、対策を始めました。面接の練習は担当の先生が決まっていたからほとんど毎日行いました。何名かの先生に協力していただき、様々な面接官に対応

できるようにもしました。また予想されるであろう問題に、知識を増やして完璧に答えられるようにしました。大学のホームページ、学群の特設サイト、インスタグラム、YouTube、その町の新聞など、手当たり次第情報を集めました。特にホームページは受験生の中で一番開いた自信があり、いつの間にか教授の名前を言えるくらいになっていました。実際に本番の面接でも役立ち、面接官の方に「そんなエピソードまでよく調べましたね」と笑われた時は、達成感から心が満たされました。目標が曖昧でなんとなく勉強をしていた夏前より、やりたいことに向かって必死になった2、3ヶ月間の方が質も量も気合も上でした。進路を決めた時期が人より遅く、対策がギリギリになってしまいました。本当にやりたいうことを見つけて取り組めたため、今では良かったと思っています。「何としてもこの大学で学びたい」という気持ち「私のモチベーション」に繋がりました。その気持ちが何より合格に近づく秘訣なのかもしれません。



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

「灯台下暗し」

熊本学園大学商学部商学科

熊本学園大学特待生特別推薦
熊本市立出水中学校出身 R・T

私は、学付から学園大への特待生として、熊本学園大学に合格しました。私が高校三年間で勉強や進路決定をするときに気づいたこと、大切にすべきだと感じた三つのことをここに書かせていただきます。みなさんの参考になれば幸いです。

一つ目は、私が進路決定をするときにやってよかったことについてです。実は、学付からの学園大への特別推薦というのは学付のホームページにしか書いていない情報で普通はなかなか気づきにくいのですが、私はたまたまホームページの「学園大入試制度」の存在に気づき、これだ!と思いこの入試方式での学園大への進路を決めました。その時私はすぐに先生に相談をしに行きました。先生と話をしていく中で改めてこの進路に決定しようという確信を持つことができたし、同じように特待で学園大に行った先輩の話や例年どんな雰囲気なのかを色々教えていただきました。その後もう少しでもわからないことや不安なことがあったら先生に相談するようにしています。この経験から、進路や受験に関して大事なことは、ささいなことでも疑問点があったらすぐに先生に相談するべきだと思っています。

二つ目は、勉強する場所についてです。私は家で長時間勉強をするのが苦手なのですが、そういう人は、とにかく外に出て集中して勉強することをおすすめします。私は、朝はラウンジで勉強して、放課後は塾の自習室、休日は塾か図書館、どこも開いていない日は勉強可能な

飲食店で勉強していました。外に行って、簡単には帰れない、休めない状態に自分を置いて、集中した質の良い勉強時間を確保していました。特に朝からラウンジで勉強すると自己肯定感も上がっておすすめてです!

三つ目は、勉強時間についてです。高校では中学校のときよりもテスト範囲も広いし内容も難しいので、要領よくテスト勉強することと、テスト期間外も勉強することが大事だと思っています。私は定期考査がある一ヶ月前から特に気合を入れて勉強して、普段も苦手教科や単語テストの勉強をしていました。そうすることで、教科数が多くてもなんとかテスト範囲の復習を全て終わらせてテストに臨み、高得点を取れるようになったと思います。他の人よりできない分、勉強時間を多く取ることを心がけていました。

最後に、私は高校一年生の時に、学園大特待の先輩の合格体験記を読んで、失礼な話ですが、「特待生ってなんかすごそうなのになんでわざわざ学園大を選んだんだろう」と勝手に不思議に思っていました。まさか私がその学園大特待で合格するとは一ミリも思っていなかったと思います。進路を考えるときは視野が狭くなって思いがけないところにある答えに気づけないことがよくあります。私はまさに灯台下暗しでした。焦らずに今自分のやるべきことを一つ一つこなししていけば必ず最高の選択が見つかるはずですよ!応援しています!



「楽しむ」

熊本大学工学部土木建築学科

学校型推薦選抜（大学入学共通テストを課す）

菊陽町立菊陽中学校出身 Y・D

勉強は継続と逃げないことが大切だと思う。私なりの勉強のコツを書きたいと思う。

1つ目は何かしらモチベを作ることだ。参考書を買ったり、好きな人が勉強しているからなどなんでもいいと思う。きついときでも自分を奮い立たせるものがあると自然と頑張れる。

2つ目は勉強に集中できる環境を作ることだ。私の場合は家にいるとベッドで横になったり、スマホを触ったりして勉強ができなかったので、図書館やスタバ、役場の学習スペースなどに行き朝から夜まで勉強していた。自分が集中できる場所を見つけることは特に大切だと思う。

3つ目は目標を立てることだ。明確に決めなくてもいいが、早めに行きたい大学を決めるのがいいと思う。モチベにつながる。

4つ目は習慣化することだ。私は毎日朝は7時過ぎに学校に行き、放課後は学校が閉まるまで自習をしていた。サイクルを固定することで本番まで健康でいられた。

5つ目は苦手を減らしておくことだ。私は共テの国語が苦手で波が大きく、最後まであまり対策せず運にまかせてしまった部分がある。国語は一科目で200点分あり大きく判定に関わってしまう。苦手を減らすことで自信にもつながる。

結局は教科書を熟読していれば何も怖いものはない。共

通テストは国語を除いて教科書の内容しか出ないので、時間があるときは教科書の端を読むだけで得点に直結する。たくさん勉強した結果、模試で目標に届かなかったとしても本番は取れるという気持ちが必要だと思う。その代わり間違った問題は説明できるくらい理解することが大切だと思う。わからない問題は先生方に質問することと良いと思う。先生方は親身になってわかるまで答えてくださる。スマホを使いすぎってしまう人は友達と一緒にアプリを消すのがいいと思う。私はゲームアプリを消したがなにも困ることはなかった。私の考えだが学付の頃の授業と課外をしつかり受け、定期テストを頑張っていれば塾にいかなくても受験に困ることはない。学付は共テや二次の対策が充実していて学付で良かったと思う。人によって点が上がるタイミングは異なるので周りが上がっているからといって焦ることなく演習、やり直しを繰り返していれば確実に点は上がっていく。

3年生になると勉強しなきゃなくなるので1、2年生のうち遊びだりしておいた方がいいと思う。勉強を楽しく頑張ってください。



「最後には自信が努力を報いる」

東京科学大学環境社会理工学院融合理工学系
 総合型選抜（大学入学共通テストを課す）
 熊本学園大学付属中学校出身 S・K

受験を終えた今、中高6年間の努力が報われたという喜びと安堵の気持ちでいっぱいです。私は総合型選抜で東京科学大学環境社会理工学院融合理工学系に合格しました。

私は幼少期から国際開発に興味があり、国連で働きたいという夢があります。理系学問が好きなので、理工学の知識を生かして国際開発に従事したいと思っています。高1、2年はどんな大学、学部があるのかをひたすら調べ続けました。そして高2の秋にたまたま融合理工学系を見つけ、アドミッションポリシーを読んだ瞬間、「ここだ！」と直感しました。

医学や薬学など色々な分野に興味を持った時期もありましたが、幅広くリサーチを重ね、寄り道したからこそ、自分が本当に進みたい分野にたどり着くことができました。だと思えます。大学選びは簡単ではありませんが、時間をかけて丁寧に調べることで、納得のいく選択ができるのだと実感しました。リサーチの重要性は、受験を通じて強く学んだことのひとつです。

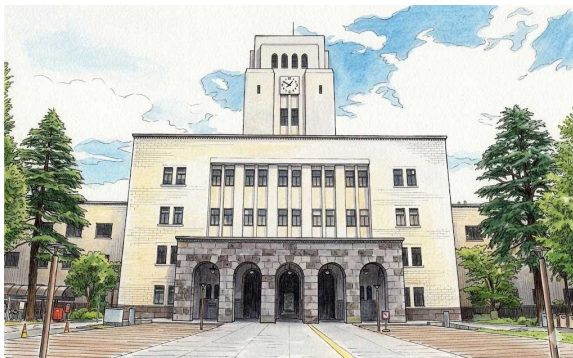
また、受験方式も慎重に選ぶ必要があります。私は生徒会、短期留学、探究活動など、勉強以外の経験を生かせる総合型選抜を選びました。自分に合った受験方式を見つけることで、より自分の強みを活かせるはず。しかし、どんなに準備をしても受験期の不安は消えませんでした。高校3年の秋、私は完全に自信を喪失して3年になってから思うように伸びず、模試の結果が泣いてきました。次の日人生が決まると思うと、不安と恐怖

でいっぱいでした。しかし、その夜、お風呂でこれまでの6年間を振り返ったとき、自分に足りなかったものは「自信」だったと気づきました。ノートや参考書の山を見返し、「ここまでやったから大丈夫！」と自信を取り戻し、本番に臨むことができました。

受験期は紆余曲折があり、正直とても辛い日々でした。しかし、一緒に勉強した仲間、何度も相談に乗ってくれた先生方、そして私を信じて応援し続けてくれた家族がいました。私以上に私のことを信じてくれている人たちとで、共通テストでは過去最高点を出し、総合型選抜にも自信を持って挑み、第一志望に合格できました。

今、皆さんの中には、成績が伸び悩んでいる人、順調に学習を進めている人など、様々な状況の方がいると思います。まだまだ大丈夫とのんびりしている人もいるかもしれませんが、受験が間近に迫ると、誰もが不安と恐怖に襲われるはず。成績が伸び悩んでいると、自信を持つことが、必ず力になります。

もちろん、努力は必要です。不安を和らげるためには、勉強することが一番の精神安定剤になります。しかし、努力を続けた先でつまらずいたときは、これまでの自分の努力を信じてください。努力に裏打ちされた自信は、必ず大きな力になります。皆さんが最後まで諦めず、頑張れることを心から願っています。



「合格体験記」

九州大学教育学部

国立大学一般選抜・前期
熊本市立下益城城南中学校出身 M・T

私は夏まで部活をしていて、推薦入試は夏休みに色々な準備や練習をしなければいけなかったので、自分が部活も入試準備も同時にできるほど器用でないと思って、一般入試を選びました。

部活を引退してから、私は家で全然勉強する気が起きなかったもので、学校のラウンジや教室で7時半から19時半まで勉強しました。あまりお金の負担をかけたくなかったので、塾には行かず、課外を受けさせてもらい休むことなく行きました。基本的な教材は授業や課外、模試でした。解いたものをやり直したり、内容を把握したりしました。また、担任の先生が用意してくださった数学の過去問を解いたり、英語の添削をしてもらったりして、11月頃まで過ごしました。

共通テスト当日は、思っていたよりも休憩時間が短く、トイレにとっても時間を割きました。また、初めてのことで不安で友達と一緒に行動したいと思うかもしれないが、自分の行きたいときにトイレに行ったり、糖分チャージをしたり、自分の時間軸で動いていたほうがいいかもしれない。共通テストが終わってからは一週間くらいの休みがあるのですが、過去問を一年分したり、参考書を進めてみたり、早めに二次試験の対策を始めたほうがいいです。また、先

生に添削を頼んで、過去問5年分は解いて、復習をしつかりすることをおすすめします。解けない問題があったら「こんなのもんなできないよ」と思いながら勉強して、解ける問題があったら「私って天才」と思いながらモチベーションを維持してください。

二次試験前日は、学生がボランティアでやっている下見ツアーで、大学への行き方を知り、案内してくださった人の話を聞いて改めてこの大学に行きたいと思いました。当日はバスや電車の中で、これまでの勉強でわからなかった単語をまとめた単語帳で復習して、着いてからはトイレの場所を確認したり、気持ちを落ち着かせたりしました。空欄をつくりたくない性分なので、時間を決めて、わからないくてもとりあえず全部埋めました。

前期試験が終わってからは、前期が落ちたものだと思うて、後期試験の勉強を始めました。小論文の書き方はよく知らなかったもので、添削してもらいながら学びました。わかりやすく、なるほどと納得することばかりでした。

最後に、この受験生活を支えてくれた家族や愛犬や友人、先生方に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これから受験を控えるみんな、頑張れ！



「これから受験を迎える皆さんへ」

大阪大基礎工学部システム科学科

国公立大学一般選抜・前期

熊本市立京陵中学校出身 T・A

私はこの度、大阪大学基礎工学部システム科学科に合格することができました。

受験勉強は長く、辛く、難しく、必死に努力しても結果に結びつかないなんてことは珍しいことではありません。受験勉強を通して、的を外さない努力をし、その努力を結果に結びつけるうえで自分のコツのようなものをいくつか身に付けてきました。今回はそのうちの二つを話したいと思います。この内容はあくまで私が受験勉強をするうえで役に立ったものであり、全員にとってそうであるとは限らないし、ひとりひとり自分にあった方法があると思います。だから、あくまでこういう風に受験を乗り越えた人もいるんだなという風に受け取ってください。

まず一つ目のコツは、努力が必ず結果に結びつくわけではなく「努力が必ず結果に結びつくわけではなく、必ず報われる」という言葉がありますが、まるで勉強時間を増やせば、自然と合格するという風にとらえてしまいません。でも実際は、皆さんのライバルはもれなく全員努力しているわけで、その中から、多くの大学で半分近く、またはそれ以上が落とされます。だから大事なものは、努力するのは大前提として、ただ努力をするのではなく、報われるためにどう努力をするべきか考え、工夫した努力を報われるまでするということです。この

ことをしっかり理解できると、努力が目的になるのではなく、学力向上や合格が目的となって、その手段として努力をするようになり、より合格に近づけると考えています。

二つ目は、逃げずに向き合うことです。受験勉強は向き合いたくないことばかりです。自分の今の学力に向き合いたくないし、数学の定理は理解せずに丸暗記したいし、わからない問題は飛ばしたいし。でも、そういう時こそ踏ん張ってください。その時が成長するチャンスです。自分に向き合い自己分析を続け、定理は根本から理解し、わからない問題はわかるまでやる。このことはとてもなくしんどいですが、この踏ん張りの積み重ねでしか、合格への道のりは開けません。しんどいときは多くの人に支えられてください。受験は自分との戦いですが、支えとなる人はたくさんいます。共に頑張ってください。仲間、親身になってくれる先生方、多方面で支えてくれる親、多くの人に支えられながら、どうか逃げずに向き合ってください。精神論で抽象的なことが多くありますが、自分にとって大事なことを伝えたつもりです。皆さんのご検討を心よりお祈りします。



「諦めない!!!」

東京都立大学理学部生命科学科

熊本市立西山中学校出身 T・T
国立大学一般選抜・後期

受験が終わった今、受験生活を思い返すと、とにかく、とにかく、長かったなと感じます。本格的に受験勉強を始めたのは高校二年生の秋頃でしたが、最終的には入試が三月十二日まで受け、合格の通知が届いてやっと大学が決まったのは三月二十一日でした。私立の併願校も国立前期の第一志望の大学も不合格続きで、もう一年頑張ろうと覚悟を決めようとしていた頃でした。だからこそ、後期で合格をいただいたときは誇張無しで人生で一番嬉しかったです。そんな私からは、最後まで諦めないことの大切さを伝えたいです。最後まで諦めないなんてありきたりな言葉だし、正直なところ私は諦めかけていました。ただ私が伝えたいことは、努力したこと、経験したことは無駄になかならないし、乗り越える山は大きくて多い方が自信に繋がるといことです。私の感覚ではありますが、後期入試は本当にきついです。進路が決定している友人は遊び始めているし、第一志望校にはもう行けないのに頑張らないといけない、十数日の辛抱だと先生は言うけど、ものすごく長い十数日です。もちろん、前期の第一志望校が不合格ならば後期入試は受けずにもう一年頑張るというのも素敵な選択肢の一つです。しかし私はこうやって後期入試を受験し終わった今、心の底から頑張ったよかったと思っっています。もし自分が不合格になっていたらとしても、同じように感じていると確信

しています。後期入試を受けるために東京への飛行機に乗ったときは、まだ気持ちも切り替えられず、試験は受けずに観光して帰ろうかななんてことまで考えていました(笑)。でも試験を受け終わったあとはそれまでとは打って変わって、後期まで頑張れたという自信がっていました。小さなものに思えるかもしれませんが、これまでの辛かった共通テスト対策や毎日の課外授業など思えば本気で思えます。ゴールは人それぞれですが、自分の決めたゴールまで走り抜けた人はきっと、走り抜けることができたという自信がつくし、走り抜けた経験は絶対にこれから先の人生で役に立つと思います。本当に頑張ったよかったし、三月末まで頑張り続けられた自分を心の底から誇りに思います。最後に、高校三年生の一年間は想像の何倍も短いです。これから受験に向かって頑張るみなさんが、自分自身の納得のいく努力をして第一志望の進路に進むことができると願っています。

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学



「結局は気合い」

慶應義塾大学商学部商学科

熊本市立二岡中学校出身 K・O

指定校推薦

私は指定校推薦で慶應義塾大学商学部合格しました。この合格体験記では、私の経験を通じて、これから受験生となる皆さんにアドバイスをお伝えしたいと思います。私はサッカー部に所属しており、朝練を含めて週8日の練習や試合をこなしていました。家から学校までの10kmを毎日自転車を通い、練習後は21時頃に家に帰宅する日々。朝練がある日は6時20分には家を出ていました。部活漬けの毎日を送りながらも、勉強を両立させることは簡単ではありません。しかし、部活を理由にして勉強を疎かにしたり、志望校を諦めたくはありませんよね。私は、「部活があるから勉強できない」と言い訳をしてしまえば負けだと思っていました。そのため、どうしたら部活と勉強を両立させつつ志望校に合格できるかを何度も考え、実践し、そしてその都度振り返りながら試行錯誤を繰り返しました。その中で、特に伝えたいことが2つあります。

1. 「逆算思考」

部活中、よく厚先生が「ゴールから逆算しろ!」とおっしゃっていました。逆算とは、まず自分の明確な目標を設定し、それに向かってどのよう行動をとるべきかを逆の順序で考えることです。私自身、この方法を実践することで自分の目指すゴールとそれに向けて今何をするべきかが明確になり、勉強の効率が格段に上がりました。「今自分は慶應に行くためにテスト勉強を頑張っている」

というモチベーションにも繋がりました。皆さんも、一度紙とペンを用意して、上に自分の目標下に今の自分を書き、ゴールからスタートまでの道筋を具体的な計画を立てながら矢印で繋げてみてください。

2. 「結局は気合い」

逆算して自分が何をすべきかが明確になったとしても、それを実行しなければ意味がありません。そうなんです。結局は行動に移せる気持ちの強さ、つまり気合いが一番大切なんです。部活動に所属している人はそうではない人と比べ忍耐強さを持っているという点で受験において大きな武器になると私は考えています。これから受験生となる皆さん、気合を入れ直して、心は熱く頭は冷静に受験と向き合ってください。

「100人が夢を抱き、10人がその夢のため行動に移し、1人が最後までやり抜く。」

自分の可能性を広げるのも狭めるのも自分次第です。皆さんの健闘をお祈りしています

